

# 第33回 埼玉県児童発達支援事業職員実践交流セミナー 開催要領

## 開催テーマ

「あたたかい風が吹く支援をめざして」

— 支援者同士のつながり作りを 「あいたい」「ききたい」「しゃべりたい」 —

### 開催趣旨

発達が気になる子、配慮が必要な子への支援、ご家族への支援、幼稚園・保育所、他の事業所、医療、教育機関との連携等々、皆さん日々奮闘されていることと思います。

毎年開催しておりますこの実践交流セミナーですが、埼玉県内の児童発達支援センターや児童発達支援事業所の職員等が顔を合わせることのできる数少ない機会として、例年たくさんの方々に参加していただいています。

今年も、埼玉県発達障害福祉協会、埼玉県児童発達支援連絡協議会（旧埼玉県通園施設協議会）、埼玉県理学療法士会の主催三者で、6月から月1回のペースで実行委員会を重ね、準備をしてきました。昨年度は、県内67の施設・事業所から210名の参加がありました。ありがとうございました。

午前の講演会では『親子の愛着の関係の大切さ』—発達支援としての子どもの見方、かかわり方・親支援—』というテーマで、東京大学名誉教授の汐見 稔幸先生にご講演をいただきます。また、午後は5つのセッションを企画しています。

支援現場を取り巻く情勢は、制度の改正も含め年々変化しており、何を大切に支援に取り組んでいいか、日々の忙しさの中で見失いがちになることもあると思います。支援の4つの柱“本人支援”“家族支援”“地域連携”“移行支援”を見つめ直したり、子どもの笑顔を引き出していくための日々の実践の交流を深めあったりしながら、「誰のために」「何を目指して」今日の支援に臨んでいいか、このセミナーを通じて話し合い、考えていく時間にしていきたいと思います。

「あいたい」「ききたい」「しゃべりたい」といった思いの交流ができ、明日からの実践が楽しみになるような時間を、一緒に作り上げていきたいと思います。皆さんのご参加をお待ちしています。

- |            |  |
|------------|--|
| 1 主 催      | 埼玉県発達障害福祉協会<br>埼玉県児童発達支援連絡協議会<br>公益社団法人埼玉県理学療法士会 |
| 2 企 画 実 施  | 埼玉県児童発達支援事業職員実践交流セミナー実行委員会                       |
| 3 後 援 (予定) | 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会                                |
| 4 期 日      | 令和8年2月22日(日)                                     |
| 5 参 加 者    | 県内児童発達支援事業所職員（支援に携わる全職員）、関係機関職員<br>定員：200名 ※先着順  |
| 6 会 場      | 彩の国すこやかプラザ 2階 セミナーホール（「12会場案内図」参照）               |
| 7 日程及び内容   |  |

9:30 9:50 10:00 11:50 13:15 16:15

受付	開会	講演会	昼食・休憩	セッション	閉会
----	----	-----	-------	-------	----

## (1) 講演会 (10 時～11 時 50 分)

テーマ 「親子の愛着関係の大切さ」  
～発達支援としての子どもの見方、かかわり方・親支援～

講 師 汐見 稔幸 先生

障がいのある子である前に、ひとりの子どもとして見ていく視点、関わっていく視点が重視され、「児童発達支援ガイドライン」にも基本姿勢として明記されています。

今回、汐見先生をお招きして、「親子の愛着関係の大切さ」「子育てをする親への支援」について、保護者に負担の少ない子育てと親子関係の充実についてのお話と、「子どもの育ちをどうとらえるか」「障がいではなく子どもを見るということと支援の在り方」等、私達支援者が持つべき視点についてお話ししていただき、日々私達が支援の場で子どもと向き合う中での思いや悩みを整理していく指針をいただきたいと思います。

### 汐見先生プロフィール

汐見 稔幸 (しおみ としゆき) 1947年 大阪府生まれ

所属：一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事

肩書：教育・保育評論家

東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長・全国保育士養成協議会会長・日本保育学会理事（前会長）

専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。

21世紀型の保育、学校を模索中。How to だけでなく、なぜそうすべきかを原点から考えようと努力し、それを保育者たちと共有する研修を追求している。保育が深い意味でおもしろい！と思えるようになりたいと願っている。NHK-E テレ「すくすく子育て」など出演多数。

### 最近の主な著書

- ・『子どもの生きる力をのばす5つの体験』 2025年（辰巳書房）
- ・『学校とは何か - 子どもの学びにとって一番大切なこと』 2024年（河出書房新社）
- ・『新時代の保育のキーワード 乳幼児の学びを未来につなぐ12講』 2024年（小学館）
- ・『見直そう！0・1・2歳児保育 教えて！汐見先生 マンガでわかる「保育の今、これから」』 2023年（Gakken）
- ・『汐見先生と考える こども理解を深める保育のアセスメント』 2023年（中央法規出版）
- ・『子どもの「じんけん」まるわかり』 2021年（ぎょうせい）
- ・『教えから学びへ』 2021年（河出書房新社）
- ・『今、もっとも必要なこれからのこと・子育て支援』 2021年（風鳴舎）
- ・『エール イヤイヤ期のママへ』 2021年（主婦の友社）
- ・『エール プレ思春期のママへ』 2021年（主婦の友社）
- ・『保育者のためのコミュニケーション・トレーニングBOOK』 2019年（ぎょうせい）ほか多数

## (2) セッション (13 時 15 分～16 時 15 分)

別紙「セッション一覧」をご確認の上、参加申し込みフォームに希望するセッションの番号を入力してください。

なお、会場の都合で、申込人数によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

## 8 申し込みについて

下記 URL または二次元コードよりお申込みください。

必要事項を記入の上、令和8年1月16日（金）17時までにお申し込みください。

※携帯、スマートフォンからもお申込みができます。

※定員に達し次第、受付を終了する場合がございます。

※期間を過ぎてのお申し込みはできません。

申し込み URL: <https://ws.formzu.net/dist/S582675982/>



### <留意事項>

- (1) 1つの法人から複数名御参加の場合でも、セッションの希望を取りますのでお一人ずつお申し込みください。
- (2) 本研修の受講決定通知及び、セッションのアンケートの案内を申し込み時に登録されたメールアドレスあてに送付いたします。令和8年1月23日（金）に送付を予定しておりますので、必ずご確認ください。

### <申し込みについての問い合わせ先>

埼玉県発達障害福祉協会 事務局

埼玉県社会福祉協議会 施設業務課内 担当：淋代（さびしろ）

Tel : 048-822-1467 Fax : 048-822-3078 E-mail : hassyoukyo@fukushi-saitama.or.jp

## 9 参加費及び支払い方法

### (1) 参加費

500円（講演会、セッション含む）

### (2) 振込みについて

令和8年1月16日（金）までに以下の留意事項をご確認の上、指定の銀行口座にお振り込みください。

なお、当日現金でのお支払いはお受けできませんので、ご了承ください。

### <留意事項>

- (1) 銀行備え付けの振込用紙をご利用ください。振込手数料はご負担願います。
- (2) 振込受領書をもって、領収書に代えさせていただきます。なお、公費で研修を受けられる方で領収書が必要な方は、研修日当日、受付にお申し出ください。
- (3) 振り込まれた参加費は返金できません。代わりの方の参加は可能です。
- (4) 申し込みフォームの「参加費の振込について」の欄に、振込日等必要事項を明記してください。
- (5) 参加費の振り込みにつきましては、事業所等で取りまとめていただき、一括での振り込みをお願いいたします。12文字以内で振込人名義を記入し、その通りの名義で振り込みをしてください。

### <振込先>

銀行名：埼玉りそな銀行 埼ヶ谷支店

口座番号：普通預金口座 4549952

名 義：「埼玉県児童発達支援連絡協議会」

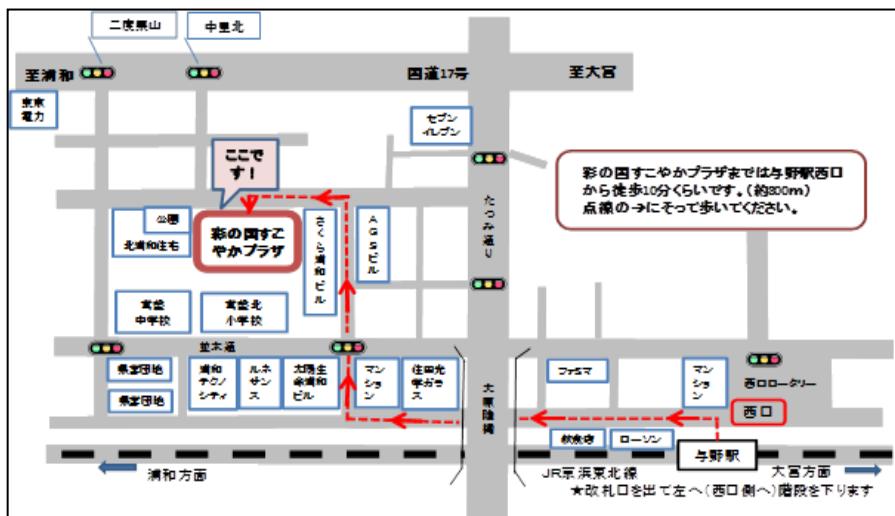
※口座管理の都合上、主催団体のひとつである埼玉県児童発達支援連絡協議会の口座

を使用します。尚、会計管理は、セミナー実行委員会にて行います。

## 10 その他

- (1) 会場周辺にはレストラン等がありませんので、昼食については各自ご用意くださいるようお願いいたします。
- (2) 駐車場の台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。
- (3) 対面での研修となりますので、ご自身の健康状態等、感染予防への配慮の程、よろしくお願いします。
- (4) 参加申込書の記載事項は、当会で出席や受講等の情報管理を行うこと以外の目的には使用いたしません。

## 11 会場案内図（彩の国すこやかプラザ）



### 【住所】

さいたま市浦和区針ヶ谷  
4-2-65  
(JR 与野駅西口徒歩 10 分)

## 12 問い合わせ先

講演会及びセッションの内容についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

担当	氏名	施設名	電話番号
実行委員代表	柳澤 健一	社会福祉法人みのり福祉会 児童発達支援センターあんず	04-2969-3355
第1セッション	吉原 旦容	羽生総合病院 リハビリテーション科	048-562-3000
第2セッション	千葉 まどか 丸山 真理	富士見市立みづほ学園	049-252-3237
	池田 房道	社会福祉法人ひらく会そだち園	048-420-9074
第3セッション	小林 瞳美 安藤 夏那子	新座市児童発達支援センター アシタエール	048-485-9783
	平池 厚作	川口市心身障害福祉センターわかゆり学園	048-282-9553
第4セッション	石井 奈帆美 渡澤 実央	さいたま市総合療育センター ひまわり学園	048-783-2493
	飯田 美智子	川越市立児童発達支援センター	0492-57-6900
	高松 智美	川口市心身障害福祉センターわかゆり学園	048-282-9553
第5セッション	服部 幸子	川口市心身障害福祉センターわかゆり学園	048-282-9553
	柳澤 健一	社会福祉法人みのり福祉会児童発達支援センターあんず	04-2969-3355
	堀口 美帆子	埼玉県児童発達支援連絡協議会代表幹事	

※天候不良、感染症等、セミナー開催についての、前日及び当日の連絡先は、  
080-8703-9655(あんず柳澤)となります。

## 《セッション一覧》

	内 容 及 び 発 表 者	担当実行委員
第 1 セ ッ シ ヨ ン	<p><b>テーマ 『その遊びには意味がある!!』</b> ～それぞれの目線で考える～</p> <p><b>講師： 酒井 令子 先生</b> (さいたま市総合療育センターひまわり学園 理学療法士)</p> <p>子どもの運動発達の指標には、首のすわり、お座りなどがあり、ひとり歩き（歩行獲得）までは【定型発達】として捉えられ、獲得する順序や時期に遅れが見られると、何かしらの理由があるとして医療機関での原因の精査が行われます。しかし、歩行獲得以降はどうでしょうか？ ここから身体に問題がなければ、経験の積み重ねの違いによって運動の獲得に差が出てきます。運動の経験は、子どもの個性や周囲の環境に、大きく影響されます。</p> <p>どうしたら楽しく運動（あそび）に取り組めるか、そして多くの経験を次の活動に生かせるのか一緒に考えていきたいと思います。</p> <p>*実技がありますので動きやすい服装で参加してください。 *裸足になりますので、タイツやストッキングなどの着用はご遠慮ください。 *薄手の浴用タオルをご持参ください。</p>	<p>&lt;担当&gt;</p> <p>神原 孝子 (埼玉県小児医療センター)</p> <p>魚瀬 ひいろ (株式会社おやとこサンキッズ)</p> <p>埼玉県 理学療法士会</p>
第 2 セ ッ シ ヨ ン	<p><b>テーマ 『家族支援・保護者支援』</b></p> <p>子ども達のより良い生活につなげていくためには、切っても切れない大切な支援のひとつである「家族支援・親支援」。だからこそ、悩みの多いテーマですよね。今回も、皆さんでたくさん意見を出し合い、情報交換ができる場になればと思い、セッションを持つことになりました。</p> <p>親子通園と単独通園での保護者支援の違いや、大切にしていること、参観や懇談会など、それぞれの事業所での取り組みや情報交換を行い、明日からの「家族支援・親支援」のヒントが見つかる内容にしたいと考えています。参加される皆さんには、事前に、家族支援で大切にしていること、具体的に行っている内容、これから行おうとしている内容等をアンケートに記入していただき、グループに分かれて話し合いを進めたいと思います。自由記載の欄も設けますので、悩んでいることもご記入ください。</p> <p>最後に、長年親子通園を大切にしている担当実行委員である「そだち園」の池田先生から、まとめのお話をさせていただきます。皆さんでいろいろ話をする中で、学び合える機会としていきましょう。</p>	<p>&lt;担当&gt;</p> <p>丸山 真理 千葉 まどか (富士見市立みずほ学園)</p> <p>池田 房道 (そだち園)</p>

	内 容 及 び 発 表 者	担当実行委員
第 3 セ ツ シ ヨ ン	<p><b>テーマ 「生活習慣」</b></p> <p>児童発達支援ガイドラインが改訂され、5領域に着目して支援していくことが求められるようになりました。</p> <p>5療育の中の「健康・生活」(食事・排泄・睡眠・健康等)に各施設がどのように取り組んでいるのか、情報交換できればと思います。</p> <p>就学前の子どもの育ちを支える根っここの部分であり、ご家族と一緒に考えていかなければならぬため、悩みも多いと思います。</p> <p>そこで、今年度アンケートに各施設の取り組み状況を含めて記入していただき、グループに分かれて話し合いたいと思います。</p> <p>話し合いの中で支援のヒントを得る機会や学び会える場にしていきましょう。</p>	<p>&lt;担当&gt;</p> <p>平池 厚作 (川口市心身障害 福祉センター わかゆり学園)</p> <p>小林 瞳美 安藤 夏那子 (新座市児童発達 支援センター アシタエール)</p>
第 4 セ ツ シ ヨ ン	<p><b>テーマ 「あそびを広げよう」</b> ～手作りおもちゃと集団あそびの実践共有～</p> <p>日頃、どのように遊びを考えたらよいか、この遊びって難しいな?等遊びについて悩むことはありませんか。今回このセッションでは、発達支援の経験年数が10年ぐらいまでの方を対象に日頃の遊びについてグループワークで語り合います。</p> <p>前半は実際に遊んでいる手作りおもちゃの紹介と室内あそび、集団遊びで工夫していることを持ち寄り、現場で活用できる実践アイデアを交換します。集団遊びは一般的なルールあそびだけでなく、何人かの子ども達で一緒に楽しめる遊びをイメージし、アイデアを持ち寄せたらと思います。日々の遊びの中で子どもの「できた!」「楽しい!」を支える関わりを考えながら、みんなで遊びの引き出しを増やしましょう!</p> <p>後半はグループで集団遊びを実践し体験してみます。子どもの特性を踏まえてどんな環境づくりをしたらよいか?ねらいは?などを一緒に考えます。遊びに関する悩みも相談し合い、「どうしたら?」のヒントを見つけて、各施設に持ち帰ってもらえたたらと思います。</p> <p>*当日、手作りおもちゃ・教材を持ち寄ります。(実物または現像した写真など紹介できるように準備してください)また、当日グループで共有する集団あそびで使う物を持参できる方はお願いします。</p>	<p>&lt;担当・記録&gt;</p> <p>石井 奈帆美 渡澤 実央 (さいたま市 総合療育センター ひまわり学園)</p> <p>飯田 美智子 (川越市立児童発達 支援センター)</p> <p>高松 智美 (川口市心身障害 福祉センター わかゆり学園)</p>

	内 容 及 び 発 表 者	担当実行委員
第 5 セ ツ シ ヨ ン	<p><b>テーマ 「地域連携・つながる支援」</b></p> <p>障がいの有無にかかわらず、子どもたちが安心して共に暮らすことができる地域づくりを進めるため、様々な立場で日々ご活躍をされていることだと思います。</p> <p>近年、保育所、幼稚園等と児童発達支援との併用や、複数の児童発達支援事業所の利用をする子どもが増加しています。点（各園、事業所等）での支援ではなく、点と点を縦（学校や保育所等への移行支援）と横（保育所等と児童発達支援事業所間）にどうつなげていくか、地域支援の中の親支援について考えていきたいと思います。子どもの生活はすべてつながっています。その生活にかかる様々な立場の支援者が同じ方向を向いて支援ができることが、安心して暮らすことができる第一歩だと思います。子どもを中心に暖かな輪をつなげる支援、一緒に考えてみませんか？</p> <p>①保育所等訪問支援 ②縦へのつなぎ…移行支援について ③横へのつなぎ…多くの事業所を利用しているお子さんの事業所間連携（束ねる支援）の3つのテーマを考えました。皆さんで意見交換をし、共有をしながら今後の支援につなげていきましょう</p>	<p>&lt;担当・記録&gt;</p> <p>服部 幸子 (川口市心身障害 福祉センター わかゆり学園)</p> <p>堀口 美帆子 (児童発達支援連絡 協議会)</p> <p>柳澤 健一 (児童発達支援 センターあんず)</p>